

様式第二号の八（第八条の四の五関係）

（第1面）

産業廃棄物処理計画書

2023 年 6 月 27 日

岐阜県知事 殿

提出者

住 所 岐阜県中津川市小川町2番3号

氏 名 王子マテリア株式会社 中津川工場

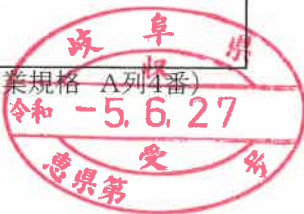
工場長 渡邊 将人

電話番号 0573-66-1511

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他の処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	王子マテリア株式会社 中津川工場
事業場の所在地	岐阜県中津川市小川町2番3号
計画期間	2023年4月1日～2024年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
① 事業の種類	14：パルプ・紙・紙加工品製造業
② 事業の規模	板紙の生産量：142,106 t/年
③ 従業員数	85人
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙1のとおり

（日本産業規格 A列4番）



(第2面)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)
別紙2の通り

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（2022年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙3のとおり	
	排出量	7641 t	t
	(これまでに実施した取組) ・生産設備を順次更新し、原料古紙からの繊維回収率を高めた。 ・排水処理工程改善により、排水処理工程から回収原料として再利用できる量を増やし、排水汚泥の発生量削減を行った。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙4のとおり	
	排出量	8030 t	t
	(今後実施する予定の取組) ・製造工程での歩留まり率改善などにより、発生する汚泥量の削減に努める。 ・工程の運用見直しにより汚泥（脱水ケーキ及びパルパー粕）の発生量削減に取り組む。		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 汚泥は自社処理（焼却または減容固化）するものと、外部処理業者に処理を委託するものに分別を行っている。
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ・可能な限り自社処理量を増やし、社外委託量の削減に努める。 ・工程の運用見直しにより汚泥の発生量抑制を図る。

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（2022年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙3のとおり	
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	2184 t	t
	（これまでに実施した取組） 減容固化設備を導入し、従来焼却処理していた製紙汚泥を燃料化してグループ内での有効利用を推進中。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙4のとおり	
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	2345 t	t
	（今後実施する予定の取組） 減容固化設備の安定操業及び処理量増に努め、自社グループ内で燃料としての有効利用を進める。		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（2022年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙3のとおり	
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	2407 t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	5036 t	t
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙4のとおり	
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	2266 t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	5124 t	t
①現状	（これまでに実施した取組） 自社内で焼却又は減容固化処理し、産業廃棄物の減量に努めてきた。 なお、自社内焼却処理において、中津川工場焼却炉は休止中のため、松本工場焼却炉（排熱ボイラーによる熱回収を実施）で処理をしている。		
	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙4のとおり	
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	2266 t	t
②計画	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	5124 t	t
	（今後実施する予定の取組） 減容固化機の安定操業に努め、自社グループ内で燃料としての有効利用を進めるとともに、熱回収を行う自社内焼却炉の有効利用に努める。		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（ 2022 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙3のとおり	
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	0 t	t
	(これまでに実施した取組) 自ら産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分は行っていない。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙4のとおり	
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	0 t	t
	(今後実施する予定の取組) 自ら産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分を行う予定はない。		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度（ 2022 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙3のとおり	
	全処理委託量	421 t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	267 t	t
	再生利用業者への処理委託量	319 t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	0 t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	60 t	t
	(これまでに実施した取組) 従来埋立していた汚泥を中間処理委託に切り替え、直接埋立処分量は0となった。		

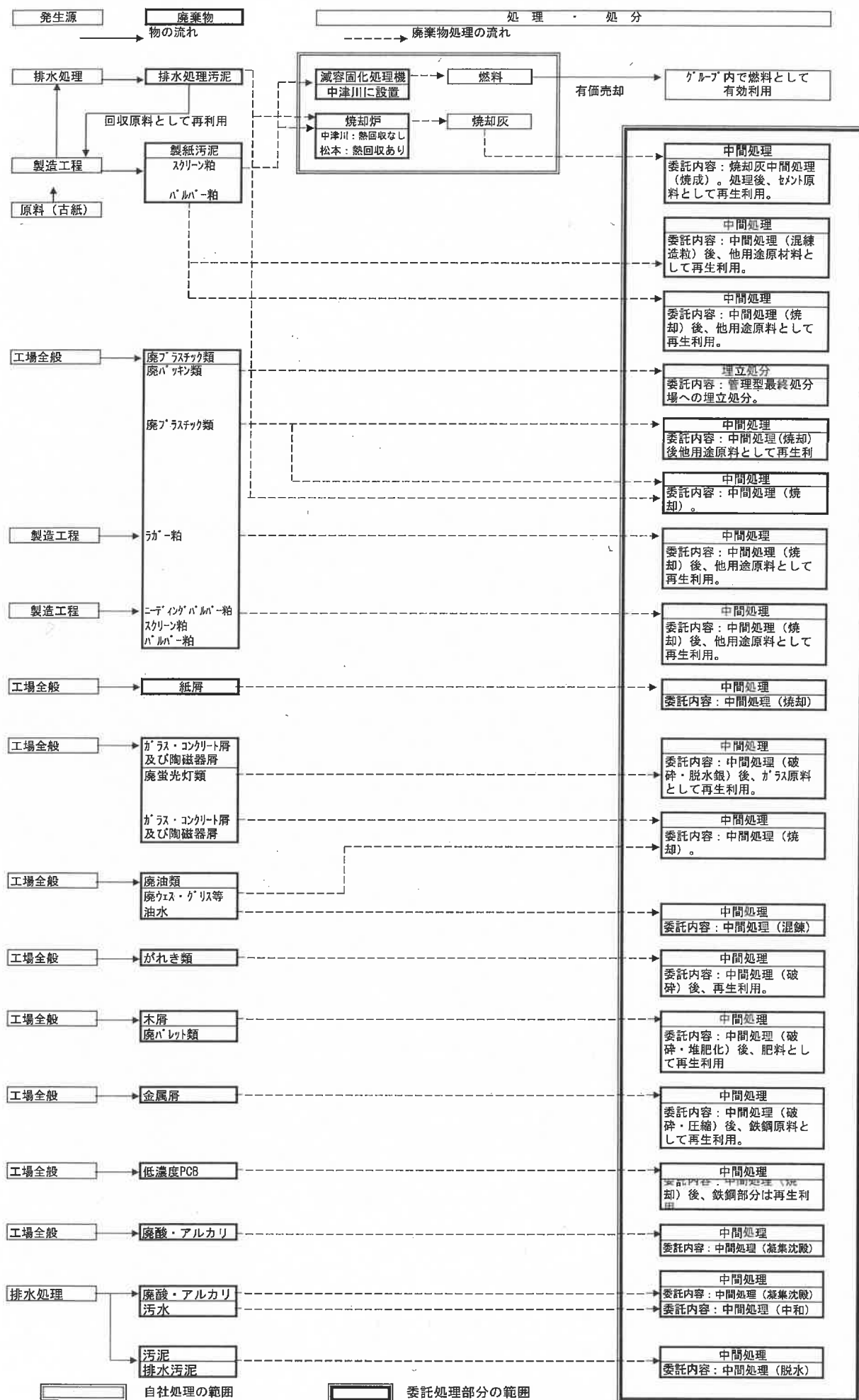
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙4のとおり	
	全 処 理 委 託 量	561 t	t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	394 t	t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	479 t	t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	0 t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	6 t	t
	(今後実施する予定の取組) 自ら熱回収を行う産廃の量が減少する見込みにより、社外委託量増えるが、作業工程見直しにより、従来社外処理委託をしていた汚泥（パルパー粕）の排出量削減に努め、社外処理委託量増の抑制に取り組む。 ゴールデンウィークやお盆、年末年始など工場の長期休転と処理業者の長期休暇が重なることが多くなってきており、委託先複数化などを進めることで埋立処分量0を継続できるように努める。		
	※事務処理欄		

(第6面)

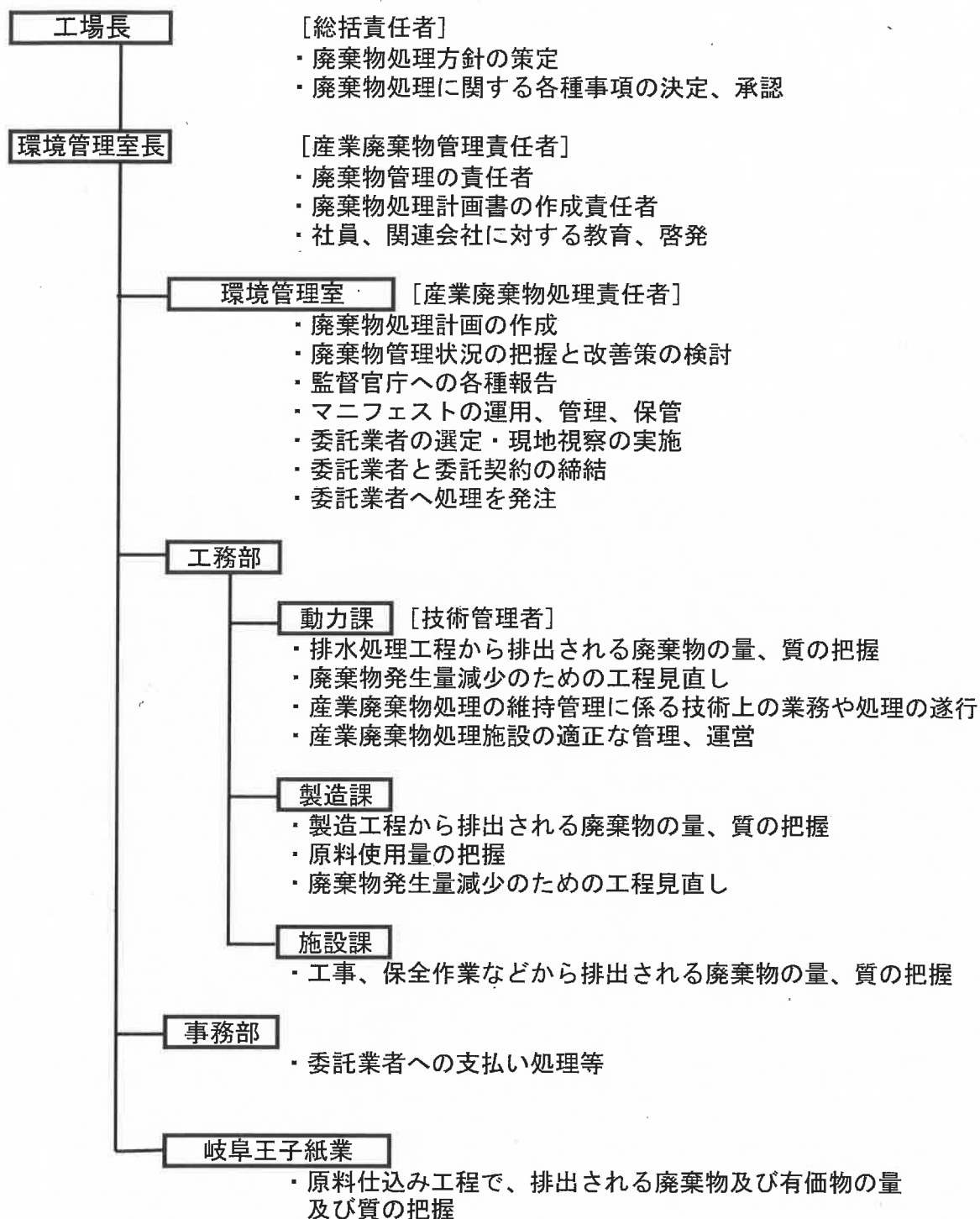
備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「一」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

産業廃棄物の一連の処理の工程



別紙2 産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項



別紙3

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

○現状 前年度 実績

産業廃棄物の種類	汚泥類				紙くず	廃プラスチック類	ガラス屑・コンクリート屑、がれき類	金属屑	木屑	廃油類	廃酸・廃アルカリ	合計
	ハルパ-粕	Nハルパ-粕	スクリーン粕	脱水ケーキ等								
排出量(t)	2,255	2,657	2,490	170	1	37	0	3	19	8	1	7,641

自ら行う産業廃棄物の処理に関する事項

○現状 前年度 実績

産業廃棄物の種類	汚泥類				紙くず	廃プラスチック類	ガラス屑・コンクリート屑、がれき類	金属屑	木屑	廃油類	廃酸・廃アルカリ	合計
	ハルパ-粕	Nハルパ-粕	スクリーン粕	脱水ケーキ等								
自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	14	1,154	1,005	11	0	0	0	0	0	0	0	2,184
減容投入前	31	2,579	2,243	70								
減容投入後	14	1,154	1,005	11								
自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	2,082	78	247	0	0	0	0	0	0	0	0	2,407
焼却前	2,082	78	247	0								
焼却後	95	4	11	0								
自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	2,004	1,499	1,474	59	0	0	0	0	0	0	0	5,036
自ら埋立処分又は海洋処分を行う産業廃棄物の量	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

○現状 前年度 実績

産業廃棄物の種類	汚泥類				紙くず	廃プラスチック類	ガラス屑・コンクリート屑、がれき類	金属屑	木屑	廃油類	廃酸・廃アルカリ	合計
	ハルパ-粕	Nハルパ-粕	スクリーン粕	脱水ケーキ等								
全処理委託量	237	4	11	100	1	37	0	3	19	8	1	421
優良認定処理業者への処理委託量	142	0	0	99	1	24	0	0	0	0	1	267
再生利用業者への処理委託量	237	4	11	10	0	34	0	3	19	0	1	319
認定熱回収業者への処理委託量	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への委託量	25	0	0	0	0	27	0	0	0	8	0	60

別紙4
産業廃棄物の排出の抑制に関する事項
○目標

産業廃棄物の種類	汚泥類				紙くず	廃プラスチック類	ガラス屑・コンクリート屑、がれき類	金属屑	木屑	廃油類	廃酸・廃アルカリ	低濃度PCB	合計
	ハルパ-粕	NAハルパ-粕	スクリーン粕	脱水ケーキ等									
排出量(t)	2,375	2,750	2,640	140	1	55	3	5	20	5	10	26	8,030

自ら行う産業廃棄物の処理に関する事項
○目標

産業廃棄物の種類	汚泥類				紙くず	廃プラスチック類	ガラス屑・コンクリート屑、がれき類	金属屑	木屑	廃油類	廃酸・廃アルカリ	低濃度PCB	合計
	ハルパ-粕	NAハルパ-粕	スクリーン粕	脱水ケーキ等									
自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	0	1,144	1,170	31	0	0	0	0	0	0	0	0	2,345
減容投入前	0	2,584	2,640	70									
減容投入後	0	1,144	1,170	31									
自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	2,190	76	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2,266
焼却前	2,190	76	0	0									
焼却後	88	3	0	0									
自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	2,102	1,513	1,470	39	0	0	0	0	0	0	0	0	5,124
自ら埋立処分又は海洋処分を行う産業廃棄物の量	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

産業廃棄物の処理の委託に関する事項
○目標

産業廃棄物の種類	汚泥類				紙くず	廃プラスチック類	ガラス屑・コンクリート屑、がれき類	金属屑	木屑	廃油類	廃酸・廃アルカリ	低濃度PCB	合計
	ハルパ-粕	NAハルパ-粕	スクリーン粕	脱水ケーキ等									
全処理委託量	273	93	0	70	1	55	3	5	20	5	10	26	561
優良認定処理業者への処理委託量	185	90	0	70	0	18	0	0	0	0	5	26	394
再生利用業者への処理委託量	273	93	0	0	0	54	3	5	20	0	5	26	479
認定熱回収業者への処理委託量	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への委託量	0	0	0	0	0	1	0	0	0	5	0	0	6